（第１号議案）

2023 年度事業報告書

1、全体の報告（成果と課題）…1
2、事業報告…2
A ボランティアセンター…2
B フードバンク…4
C ユニバーサル就労支援…5
D 災害救援…6
E NPO活動推進センター…7
F とちぎコミュニティ基金…9
G 県北Ｖネット…15
3、財政・組織運営…16

１．全体の報告（成果と課題）

●能登半島地震の災害救援活動

2024 年 1 月 1 日に発生した能登地震災害に対して１月中旬に現地調査を行い、１月下旬から災害ボランティアを派遣した。３月末にのべ 527 人以上のボランティアを穴水町中心に送り出し、足湯や片付け等の被災地支援を行った。

被災者、ボランティア共に良かったとの感想があった。しかし、現地でボランティアを受け止めるコーディネーターを派遣することができなかった。さらに、ＳＮＳでのボランティア自粛論の影響で参加者も運転ボランティアの確保もできず、本会単独で活動を展開するにはマンパワーが不足していた。

●とちぎコミュニティ基金「助成」「合同ファンドレイジング」「プロジェクト」の成果と課題

とちぎコミュニティ基金には「助成」「合同ファンドレイジング」「プロジェクト」の３つの枠組みがあるが、今期は「合同ファンドレイジング」が活性化した。サンタ de ランのパレードに「世界の子どもたちに平和を！」のスローガンを加え、自由に参加できるようにしたことで４５０人の参加があった。また若者チームの活躍や「寄付つき商品」での店舗参加もあった。課題は実行委員会をまとめる事務局のスタッフ不足である。
一方で「助成」と「プロジェクト」は停滞・現状維持であった。「助成」は事務局の関わりが作れなかったこと、「プロジェクト」はマンネリ化が進んだ。また、新規の助成プログラムの開発や、ＨＰの充実、広報によるブランド化の促進にも着手できなかった。課題は事業を運営する事務局スタッフのマンパワー不足であり、とちコミ専従の職員が持てないことと外部支援者（ブレーン）がいないことが要因である。

●行政との協働が求められる総合相談体制の確立

フードバンクで食品提供と生活相談をしたのは 799 世帯 2,967 回になった。世帯数は前期より 1.24 倍増えていて、毎年 1.2～1.3 倍利用者が増えている。慢性的に寄付金、おかずになる食品、相談員の配置が間に合わなくなっている。

フードバンクで掘り起こした困窮者の支援を行政に対してアクションを起こし、制度の改善とフードバンクに対する部分的な支援を要請する活動が必要である。

●ユニバーサル就労の課題

法人化し、大口寄付により企業への営業担当者と相談支援員を配置して、本格的に業務を開始した。しかし支援対象者が少なく、また協力企業も増えなかった。伴走支援のノウハウの蓄積もあまりなく、1 人が無償・有償コミューターとして就労経験し、2 人が会員団体内で就労を始めるに留まった。試行錯誤しながらの活動となっ

た。

支援希望者の意思を示した 39 人のうち 6 割はフードバンク利用者である。生活穂基盤が不安定だと、段階を踏んでの訓練に踏み切れない場合が多い。継続的な相談支援を担当できるスタッフの確保が課題である。

●ラジオの活性化とラジオ学生の活躍

10 月～12 月の番組改編とともに宇都宮大学の先生等の協力を得て、週・テーマ毎の番組化を図った。特に第２週の「ＮＧＯ・市民に聞く戦争と平和ラジオ」や第４週の「原発避難 13 年目ラジオ」は、社会派（硬派）のラジオ番組として一部には聴取者が増えた。また、先生の協力により宇都宮大学国際学部を中心に学生の募集も増えた。さらに１年間のラジオインターン終了後もラジオ学生の中には本会の臨時職員（アルバイト）として事務を担う人も現れた。

２．事業報告

Ａ.【ボランティアセンター】

(1) 総合相談事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」ＳＯＳニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別ＳＯＳの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、ＦＢうつのみやでのＳＯＳ対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた**「個別のＳＯＳに同行支援する方法」**を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1　相談者の状況のまとめ】

	のべ（回）	月平均（回）	実数（件）	内複数回支援（件）	宇都宮市内/市外（　）は住所不定	世帯の人数	男/女
2012 年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、2 人:5、3 人以上:2	22/8
2013 年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、2 人:14、3 人以上:5	28/18
2014 年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、2 人:11、3 人 6、4 人:3、 5 人:5、 6 人:1、7 人:3、10 人:1	106/29
2015 年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、2 人:25、3 人:11、4 人:7、 5 人:6、 6 人:4、8 人:1	118/47
2016 年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、2 人:33、3 人:10、4 人:10、 5 人:３、６人:1、 7 人:1、10 人 1	124/61
2017 年度	572	47.7	248	182	177/15（29)	単身:158、2 人:35、3 人:11、4 人:11、 5 人:6	160/61
2018 年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身：218、2 人：49、3 人：19、4 人：9、5 人：4、6 人：4、 7 人以上：1	217/87
2019 年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身：271、2 人：51、3 人：26、4 人：13、5 人：3、6 人：2、 7 人以上：0	261/105
2020 年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身：368、2 人：74、3 人：36、4 人：10、5 人：4、6 人：0、 7 人以上：3 人	340/155
2021 年度	1658	138.25	542	290	514(28)/28（5)	単身：377、2 人：75 人、3 人:62 人、4 人:17 人、5 人：5 人、6 人:2 人、7 人以上:4 人	353/189
2022 年度	2304	192.0	649	333	600(30)/49(11)	単身：427、2 人:114、3 人:59、4 人:25、5 人:15、6 人:4、7 人以上:5	407/242
2023 年度	2967	247.25	799	470	738（25）/61(10)	単身：527、2 人：133、376、4 人：33、5 人：21、6 人：4、7 人以上：５	

【全世帯】799 世帯　　―2023 年度―
●主な困窮の内容（複数）：仕事探し・失業・就職、173　病気・健康・障害 85、　住居 11、　金銭管理・所持金無し 395、　精神疾患・人間関係など 62、　日々の生活(低年金)169　債務（家賃滞納など含む）27、　子育て・介護 5、　DV・離婚など 18
●生活保護の世帯数：　受給利用中：104、　手続き中：38
●本会までの経路：　自治体（生活福祉課・子ども家庭課・保健所など）191、　社協（県内社協含む）114、　宮ハローワーク 16、　地域包括支援センター23、　ＮＰＯ4、　ネット・テレビ 31、　　その他 131【住居なし】35 世帯
【女性相談者】332 世帯

「とちぎボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所」として総合相談支援を行った。行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどとともに数多くの支援をした。今期の支援件数は799件（世帯）のべ2967回と、回数は**前期の1.29倍**になった。「個別ＳＯＳへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

【表2　世代別利用者数（2023年度）n=649】

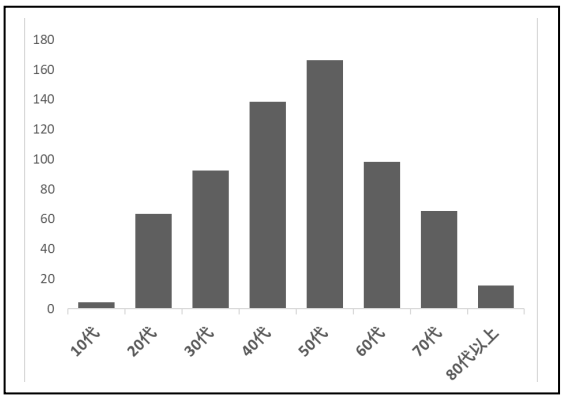

表１は相談者の状況のまとめである。金銭管理ができなくて困窮する利用者が増えている。病気、障がい等で金管理ができない人が多い。

表2では、2023度の世代別利用世帯数を表した。2022年度は前年度と同様、50代が167世帯、40代が139世帯と、働き盛りや子育て世代の利用が多かった。20代～70代以上の利用が増加し、20代と70代の増加が著しい。

②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省**社会的包摂ワンストップ相談支援事業**を一般社団法人社会的包摂サポートセンターを通し「コールセンター栃木」の支援をした。栃木では**27人のスタッフ**で**年間2393件の電話相談**に対応した。そのうち同行支援の必要があるものについては、継続相談員が直接面会をするなどの同行支援をおこなった。

（２）ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

①Ｖレンジャー

2019年から学生・若者のボランティアチームとして「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくす活動をしている。今期は主催イベント２回、年間で計15回の会議をした。春・夏に２回の宿泊キャンプ、冬にデイキャンプを実施した。他団体主催の企画への参加もした。3か所の子ども食堂のボランティアもメンバー内で誘い合いながら活動した。現在は15人が活動している。

企画名	日程	参加者	ボランティア参加者
春の那須甲子・子ども合宿	3/31-4/1	子供：20 人	20 人
Ｖレンジャー新メンバー歓迎会、バーベＱ	5/5		13 人
那珂川町キャンプ	8/26-8/27	子ども：10 人	10 人
冬・落ち葉で遊ぶ＆世界の料理	1/25	子ども：10	10 人、希望のタネ３人

（３）講師派遣事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、ＮＰＯの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**27回**（聴講数のべ870人）で講義回数聴衆は前期と同様であった。講義内容は、子どもの貧困、フードバンクが多かった。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	8	4/14～	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野(宮坂・小	80

		5/19				沢・曽根・桜井)	
2	1	5/8	「子どもの貧困について」	鹿沼ロータリー社会奉仕員会	鹿沼	矢野	50
3	1	5/8	「子どもの貧困について」	今市・鬼怒川ロータリークラブ	日光	矢野	30
4	1	5/14	「子どもの貧困について」	国際ロータリー社会奉仕員会	宇都宮	矢野	50
5	1	6/3	地域づくりフェア	宇都宮大学	宇都宮大学	宮坂、勅使河原	30
6	1	7/5	親園・佐久山民生委員研修会	親園・佐久山民生委員	佐久山	安井、實	16
7	1	8/24	「ＮＰＯについて」	革新懇		矢野	15
8	1	9/30	ふーどバンクの活動について	地域支え合い研究会	西原コミセン	徳山	30
9	1	10/23	困窮者自立支援相談員養成講座	栃木県社会福祉協議会	福祉プラザ	小澤	60
10	1	1/17	シルバー大　フードバンクについて	シルバー大中央校	健康の森	徳山	70
11	1	2/28	「能登ボランティア」Ｚｏｏｍ講義	コラボーレもおか	オンライン	矢野	50
12	1	3/7	シルバー大　フードバンクについて	シルバー大中央校	健康の森	徳山	70
13	1	3/19	子どもの貧困について	那珂川町民児協議会	那珂川町役場	徳山	40
計	20						870

B.【フードバンク】

(1) フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（ＦＢ）活動は、今期は **47 トンの食品受贈**があった。企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はＰ3 に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかに食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

バイト、日雇い、非正規で就労している人（外国ルーツの人も含む）など生活が苦しい人に対し、食品配布会を **6 回実施**し、**307 世帯に**配布した。配布会では生活相談やアンケート等を実施した結果、多くの外国籍・外国ルーツの人たちが困窮していることが判明した。社会状況が良くなったいないので今後も困窮者が増えると予想される。**ボランティア、食品、資金の調達**が**急務**である。

① フードドライブの実施、きずなボックスの設置

フードドライブ（以下ＦＤ）の食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の **37 か所**に設置した。一定の宣伝効果はあるが、食品受取は管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、食品回収人員等に課題がある。

また、**FD** を定期的に実施した（とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、イベントなど）。市内・光琳寺では毎月１日に境内で行うラジオ体操時にＦＤを実施した。

②各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜フードバンク県北＞支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第２土曜日に食品配布を実施。

＜フードバンク日光＞毎月第１水曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を不定期に３回実施。

ＦＢ日光会議：12 回　4/5、5/10、6/7、7/5、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/6
フードバンクうつのみや会議：44 回　（毎週木）

C.【ユニバーサル就労ネットワーク栃木】

(1) ＮＰＯ法人ユニバーサル就労ネットワーク栃木（ＵＷ栃木）の運営（生活困窮者の支援）

ＵＷ栃木は「中間的就労事業所」を県内に増やしていくために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。2019年から本会、ふれあいコープ、とちぎコープの３者を中心に共同事業として実施している。本会は特に相談支援を担った。

2022年度に法人化し、今期（2023年度）は臨時職員を採用して本格的に活動を開始した。１期目の課題は、利用者も企業もなかなか増えていかないことであった。さらに、アセスメント・支援方法の蓄積など伴走支援を行ったが、人材不足で支援があまりできない状態であった。今後、市の困窮者自立支援事業・就労準備支援の受託にむけて活動を行っていく。（以下、相談者の概要のみ記載する）

〇UW 相談支援の現状　（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

	項目	状況	
1	人数・件数	相談数：39 人、78 件（複数回の相談支援）	
2	性別・割合	男 24 人（61%）　女 17 人（36%）	
3	年齢（21-70 歳）	⑥　10-20 代 7 人（18%）　②30 代 4 人（10%）③40 代 10 人（28%）④50 代 11 人（28%）　⑤60 代 4 人（10%） ②　70 代 1 人（3%）　⑦不明 2 人（5%）	
4	就労状況	無職：19 人（63.3%）　有職：11 人（36.7%）	
5	経路	ＦＢ：24 人、りあん：6、ＨＰ：4、他：５人	
6	状況(3/31 現在)	就職 5 人、継続 24 人、終了 5、中止 4 人、保留 1 人	
7	理由(主訴)	①ホテルで働くが低収入（50 代男） ②親と同居し週一回程度の就労中（40 代男） ③夫のアルバイト代月 8 万円で生活する 4 人家族（40 代女） ④雇われ先や役所でトラブルを起こし仕事が続かない（50 代男） ⑤社会不安障害で通院中だが障害福祉サービスは利用したくない（40 代男） ⑥日雇いの建設・解体の仕事で繋いでいたが収入少なく退職（40 代男） ⑦職場の人間関係で抑うつ神経症になり休職ののち退職し適性・興味がわからない（不明女） ⑧介護の資格は無いが介護の仕事したい（30 代男） ⑨学校卒業後仕事が続かなかった（10 代男） ⑩うつで通院中。看護師資格があるが人間関係が苦手(60 代女） ⑪腰痛と不眠で 10 年無職（50 代男） ⑫親の介護で離職（70 代男） ⑬精神科に通いながら一般就労目指している（40 代女） ⑭婦人科系疾患あり昨年 10 月に派遣切りに遭った（20 代女） ⑮職場の先輩からのパワハラで退職後 37 年間無職（50 代男） ⑯B 型作業所見学しようとしている（60 代女） ⑰てんかんがあり採用されない（50 代男） ⑱以前の仕事に戻りたい（20 代男） ⑲脊柱管狭窄にて下肢の痺れが悪化し業務に支障が出て失業（50 代男） ⑳大学 2 年で中退しアルバイトが期間満了で更新されない（20 代男）	㉑　障害福祉サービスを利用したい（40 代女） ㉒　高校 3 年生で精神疾患がある（10 代女） ㉓　過酷な労働環境のために数日で退職し適性がわからない（20 代女） ㉔　店長からのハラスメントが理由で退職した（20 代男） ㉕　夫がアルコール依存で入院し自身も体調不良で無収入（40 代女） ㉖　人間関係で仕事が長続きしない（40 代男） ㉗　ADHD の診断を受けたばかりで仕事が決まってもすぐやめてしまう（30 代男） ㉘　事故の後遺症抱えながら職業訓練受講中（60 代男） ㉙　精神疾患あり短時間での仕事がしたい（30 代女） ㉚　就労を考え始めたがどうしたらいいのかわからない（50 代男） ㉛　両親の病院の送迎のため欠勤することが増えクビになった（50 代男） ㉜　難病患者で B 型利用を考えているが働き方が合わない（50 代女） ㉝　精神疾患で 20 年のブランクあり（40 代男） ㉞　大学院で教育学を学び小中高教員免許を持つが職歴はパートのみ（50 代女） ㉟　生活保護の申請中（30 代男） ㊱　警備員として勤務しているがうつ病で手帳申請し勤められなくなる（40 代男） ㊲　生活保護利用中。ふらつきがあるが検査入院にしても原因不明（60 代男） ㊳　成人喘息の治療をしながら通信販売の仕事をするが収入を増やしたい（50 代男） ㊴　メール問い合わせのみで詳細不明

D.【災害救援・復興支援活動】

(１) 救援・復興支援事業（災害救援事業）

１回の災害に対し調査・派遣活動を行なった。能登半島地震の救援活動は現在実施中である。

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業の概要</th><th>参加者</th></tr>
<tr><td>能登半島地震救援活動</td><td>2024/1/1 に発生した能登半島地震の救援活動ｗ行った。
①調査（１回）：石川県穴水町・輪島市・珠洲市。レスキューストックヤード（名古屋）、風組関東（東京）にインタビューした。
②救援活動１/23～4/4 まで週２回、２０陣を派遣
<table>
<tr><th>火・夜発⇒（水木金土）⇒日・朝戻り（4 日活動）</th><th>金・夜発⇒（土日月火水）⇒木・朝戻り（5 日活動）</th></tr>
<tr><td>① 1/23-1/28（４人）
③ 1/30-2/4（４人）
⑤ 2/6-2/11（４人）
⑦ 2/13-2/18（4-8 人）
⑨ 2/20-2/25（4-8 人）
⑪ 2/27-3/3
⑬ 3/5-3/10
⑮ 3/12-3/27
⑰ 3/19-3/23
⑲ 3/26-3/31</td><td>② 1/26-2/1（４人）
④ 2/2-2/8（４人）
⑥ 2/9-2/15（4-8 人）
⑧ 2/16-2/22（4-8 人）
⑩ 2/23-2/29（4-8 人）
⑫ 3/1-3/7
⑭ 3/8-3/14
⑯ 3/15-3/21
⑱ 3/22-3/28
⑲ 3/29-4/4</td></tr>
</table></td><td>① 調査：のべ８人（２人×４日）
② 派遣：のべ 527 人（避難所運営活動:のべ 401 人、運転ボラ 126 人
●避難所運営日数：73 日、
●足湯ボランティア回数：120 回、他の避難所の支援 45 日
●運転ボラ 126 人（３日×２人×21 回）
●現地避難所（穴水・プルート避難所）とともに、近隣避難所への支援
●輪島市町野町での足湯、家屋農地の片付け活動を実施（7 日間）</td></tr>
</table>

成果と課題

１月２３日からボランティアバスの運行を始め、のべ 527 人が参加した。名古屋のレスキューストックヤードのコーディネートと宿舎の提供による全面的な支援をいただたことで派遣活動ができた。

成果よりも課題が多かった。遠隔地でありボランティア参加が異常に少ないこともあって、バス便の運航が困難を極めた。バス運行が厳格化され料金が高騰していることから、一般の運転ボランティアを募集したが、運転ボラの確保が非常に困難だった。職員が交代で運転手役を担うこともしばしばであった。また学生などの若者の参加がなく、事務局体制をつくることも困難であった。

２月からは、とちぎ弁当連絡協議会の協力により、輪島市町野町への炊き出しの仲介を行った。奥能登に町野地区はボランティアが全くいない〝見捨てられた〟場所であったが、毎週１回のコンビニ弁当が来ているだけであったが、プロによる炊き出しがあり喜ばれた。

さらに３月後半から、土日だけ町野地区での片付け活動を行った。現在（4/19～）はマイクロバスをチャーターし新規プログラムとして「週末・奥能登ボランティア」プログラムで町野町で活動している。

復興支援活動：まけないぞうプロジェクト

今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の 25%が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。**当期は 223 頭、89, 200 円**の売上となった。

（２）三者連携/防災についての会議・研修（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

今期は活動はなかった。

（３）「とちぎＶネット災害救援ボランティア基金」（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

能登半島地震の募金をとちコミを通じて実施した

Ｅ．【ＮＰＯ活動推進センター】

(1) ＮＰＯに関する相談・協働事業（ＮＰＯの育成事業）

①福島からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「生活再建支援拠点事業」の事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定 2000 人いる

が、この世帯に対して復興支援員(非常勤１人)は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月２回、要継続支援 20 人を対象に実施した。また**広報誌『とちぎ暮らしの手帖』**を **2 回発行**した。

生活再建支援拠点事業は**避難者が来訪し相談できる窓口**として週３日開設した。今期はコロナ禍で交流会を実施できなかったため避難者が出演する**ラジオ番組を実施。また、自主事業として毎月第 2 日曜に「次世代に伝える。原発避難 12 年目ラジオ」**を放送し、さらに動画でも配信した。(P9：ラジオ参照)

③ SAVEJAPAN プロジェクトの運営

2021 年 10 月から損保ジャパン日本興和と日本 NPO センターの運営による「SAVELAPAN プロジェクト」の助成を受けた。２期目（2022/10～2023/9 月）は**とちぎ子ども自然体験ネットワーク**との環境保全プロジェクトを実施している。同時に、毎朝５分間の環境問題の宇都宮のコミュニティ FM ミヤラジで放送した。同時に動画や SNS での放送も行った。３期目（2023/10～現在）も**とちぎ子ども自然体験ネットワークと実施している。**昨年 10 月からは毎月１回のコミュニティ FM（ラジオ）で環境×子どもというテーマで実施している。

■2023 年４月～９月：５分間番組（36 週×週３回）
■2023 年 11 月～2024 年３月：みんながけっぷちラジオ・第３週「環境×子ども」５回放送

③ 委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。今期は「県社協ボランティア活動振興センター」「栃木県災害ボランティア活動検討会」の会合があった。

(2)ボランティアとＮＰＯに関する啓発・普及事業

①『とちコミＳＤＧｓ通信』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

2021年1・２月号から、誌名を**『とちコミ・ＳＤＧｓ通信』**と変更し紙面の内容を大幅変更した。とちぎコミュニティ基金とＳＤＧｓを中心にした紙媒体を「特出し」することで、情報誌購読だけの会員増加を狙った。いわばＶネットのプラットホームに「ＳＤＧｓ通信の会員」が乗ったものである。年6回、毎回1000部発行しＳＤＧｓ関連企業160社にも送付した。

また、2020年1月からは**『県北Ｖネット通信』**を創刊。県北のフードバンクのＳＯＳ事例を掲載した4ページ通信を発刊した。これらの措置により「とちコミＳＤＧｓ通信」のプラットホームとしての価値を見せていく。

さらに、ラジオ、Youtube**、ＷＥＢ、ＳＮＳ**と**紙媒体**とを連動して広報力を強化している。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア２～３人による製本・発送で成り立っている。

【とちぎコミュニティ基金・SDGｓ通信】

月	号	特集記事		月	号	特集記事
3-4月	259	特集/SDGｓ11「住み続けられるまちづくり」家がない・借りられないことの暮らし立て直しの困難		9-10月	262	特集/SDGｓ15「陸の豊かさを守ろう」/SAVEJAPABNプロジェクト生物多様性・座談会
5-6月	260	特集/SDGｓ12「つくる責任、使う責任」/食品ロス救出方法しらべ/廃棄の理由		11-12月	263	特集/SDGｓ16「平和と公正をすべての人に」/作られる戦争・沖縄の軍事化反対運動と「対話プロジェクト」
7-8月	261	特集/SDGｓ13「気候変動に具体的な対策を問」/ＥＯＬに聞く・気候変動運動20年		1-2月	264	特集/SDGｓ17「パートナーシップで目標を達成しよう」/〝阪神の教訓〟は能登に伝わっているか・座談会

② 「みんながけっぷちラジオ」の放送/動画作成

2017年３月からコミュニティＦＭ「ミヤラジ」で開始した。ラジオ学生がゲストに話を聞き、職員等がコメントする番組である。取材・放送・ブログ作成までを学生がインターン（アルバイト）として担当した。今期は学生５人(鈴木花梨、吉田美音、加藤伶奈、森田凛子、藤平音乃)となった。年末に「学生ラジオ・募集説明会」を実施するともに、大学の先生と連携して各週を番組化することにした。「NGO/市民に聞く戦争と平和ラジオ」「原発避難13年目ラジオ」「環境と子どもラジオ」がはじまり、コメントの体制も番組ごとに設けた。１月からは学

生６人（苫米地美空、千葉奈央、佐藤あい、立花ひまる、榎森なつ美、長滝みなみ）で実施している。番組はYoutube**動画**で再録し**ホームページで公開**した。

「半径８キロしか聞こえない」コミュニティＦＭは、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・Ｖレンジャーや、ＦＢボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が10人以上となっている。学生にもＮＰＯにも有意義な出会いとなった。

【みんながけっぷちラジオ・番組表：2023/１月から12月】

	日付	テーマ	ゲスト/所属	コメント/学生
1	1月10日	不登校の居場所・仕事	大藤園子/てしごとや	中野/鈴木花林
2	1月17日	若者と地域参画	渡邊貴也/YSN	矢野/藤平音乃
3	1月24日	原発避難・ジャーナリストがみた原発避難	吉田千亜（フリーライター）	矢野/吉田美音・櫻井脩弥
4	1月31日	市民の目線で考える戦争	清水奈名子（宇大・准教授）	矢野/加藤怜奈・桜井
5	2月7日	フードバンクうつのみや	牧岡健（FB宇都宮）	徳山/森田凛子
6	2月14日	登校拒否のこと３８年	石林正男（登校拒否を考える会）	中野/鈴木
7	2月21日	知的障害者の余暇	原田久美/スペシャルオリンピックス日本・栃木	矢野/藤平
8	2月28日	一時の避難が、まさか…	竹内都/大熊/鹿沼	矢野、加藤
9	3月7日	外国人の生活困窮	カストロ・オマル、カブレラ・サユリ（NPO希望のタネ）	徳山、吉田
10	3月14日	自由な居場所	菅圭（ここあっと）	中野、鈴木
11	3月21日	とちぎコミュニティ基金と寄付	矢野正広（とちコミ）	矢野、氏家
12	3月28日	支援者が双葉の議員になったわけ	山根辰洋（双葉町議員）	北島、加藤・櫻井
13	4月4日	FBボランティアになった理由	浅野幸太郎（FBボランティア）	徳山、森田
14	4月11日	山で保育・山で遊ぶ	牛山ミキ・山崎恵（山の幼稚園）	中野/藤平音乃
15	4月18日	あしなが学生募金とは？	田村由里（あしなが育英会）	矢野/加藤伶奈
16	4月25日	原発・自主避難	大山香/福島/宇都宮	矢野/佐藤
17	5月2日	FBボラによる相談支援	谷田敏彦	徳山/加藤伶奈
18	5月9日	寄付で動く・報道のNGO	Dialogue for People/田中えり	中野/森田凛子
19	5月16日	SDGｓ時代の森林再生	塚本達也	矢野/鈴木花梨
20	5月23日	しもつけ自然のアルバム	菊地真以・鈴木梨花・濵上百々	矢野/藤平
21	5月30日	原発・災害関連死2335人	佐々木茂夫（浪江⇒宇都宮）	矢野/吉田
22	6月6日	自治会が作ったこども食堂	宮っこの居場所SAKURa・高橋清人	牧岡・徳山/藤平
23	6月13日	自立援助ホーム	福井福治（自立援助ホームしもつけ）	中野/吉田
24	6月20日	薬物依存・女性ダルク	れん＋みや（茨城ダルク女性シェルター）	矢野/森田
25	6月27日	「見えない放射線から逃げる」	内田啓子/田村⇒益子	矢野/加藤
26	7月4日	寄り添うフードバンク	FB高根沢/下山・福田	徳山/藤平
27	7月11日	不登校は本人と親と学校で	佐々木（国際クラーク高校）	中野/森田
28	7月18日	国内の難民問題	荻津守（FMSW）	矢野/加藤
29	7月25日	原発・避難先コミュニティ	島田（自治医大看護）	矢野/吉田
30	8月1日	地域包括とフードバンク	小澤・包括	徳山/吉田
31	8月8日	校内・朝ごはんカフェ	皆川純子（なないろ）	中野/森田
32	8月15日	「医療的ケア児」	うりずん/内尾奈々子	矢野/藤平
33	8月22日	原発・不安なときのボランティア	北村雅（双葉⇒小山）	矢野/加藤
34	8月29日	ラジオ学生互いを知ろう①	ラジオ学生	藤平、鈴木、森田
35	9月5日	フードバンクあしかが	高沢友佳里	徳山・牧岡/森田
36	9月12日	「今日、うどん」こども食堂	島野雅人	中野/藤平
37	9月19日	地球温暖化を防ぐ	上岡裕（エコロジーオンライン）	矢野/加藤
38	9月26日	原発・故郷を失う経験	田中えり（Dialogue for People/）	矢野/吉田
39	10月3日	困窮家庭の支援	門馬芳子（訪問支援）	牧岡・徳山/吉田
40	10月10日	ワークエントリー	野崎	中野/鈴木
41	10月17日	毎日来る通信高校	飯嶋幸次（日々輝学園高校）	矢野/森田

42	10 月 24 日	原発・普通の避難じゃない避難	三浦秀一（双葉⇒結城）	矢野/加藤
43	10 月 31 日	ラジオ学生互いを知ろう②	ラジオ学生	吉田、加藤、森田
44	11 月 7 日	FB でインターンして	菊地香織	徳山/森田
45	11 月 14 日	教育のがけっぷち	武田さん	中野/森田
46	11 月 21 日	環境・生き物遊びを子どもたちと	環境/遠藤隼（サシバの里	真山/榎森
47	11 月 28 日	原発・避難先コミュニティ	三森良子	矢野/吉田
48	12 月 5 日	ちゅんちゅん子供食堂	伊東	徳山/森田
49	12 月 12 日	秘密基地・子どもの居場所	工藤光一郎（峰宮っ子の居場所）	中野/藤平
50	12 月 19 日	環境・自然が教室・・・	真山高士（那須高原自然学校）	遠藤/榎森
51	12 月 26 日	原発・公務員の超超激務！	今泉祐一（双葉⇒埼玉）	矢野/加藤

（３）震災がつなぐ全国ネットワークの加盟・運営（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな)」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。

（４）ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う「第 40 回ボランタリズム推進団体会議（民ボラ)」を **7 月に山梨**で実施した。企画・運営・実施に職員１人を実行委員として派遣し実施した。

Ｆ．【とちぎコミュニティ基金】

（トピック）

・ガザ支援募金は約 90 万円になった。
・能登半島地震の募金が約 200 万円になった。
・「とちコミの集い」を実施した。
・とちコミの事務局運営体制をプログラムごとに外部化し職員負担の軽減と人事体制のリスク分散を図った。

（１）プロジェクト（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①子ども SUNSUN プロジェクト＝子どもの貧困撃退♡円卓会議（宇都宮）

経緯（2017 年）

2017 年３月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、2017 年 10 月に調査報告、2018 年３月に実施計画を発表した。

（2018 年）

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに**地区円卓会議**を開催する計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年４回開催。9 月には**清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議が**発足し、とちぎＹＭＣＡを中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。また 2018 年度は市外への波及として**大田原子どもの貧困撃退円卓会議**を開催し、調査やファンドレイジング講座を開催した。ファンドレイジングとして、サンタ de ラ

ン＆ウォークや通年の子どもＳＵＮＳＵＮメイト(月額寄付)で**総額 846 万円**を集めた。

（2019 年）

５月に**総会**を実施した。**助成金申請書/ファンドレイジング計画書**の公募を行った。定期円卓会議は 8/18「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し 20 人が参加した。**地区円卓会議**として、清原地区円卓会議では**子ども食堂キャラバン**を開始し、９月には**「子ども食堂チャリティコンサート」**を地区で実施し 100 万円の寄付を集めた。宝木地区でも**宝木こども未来応援隊**が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。寄付は**総額 550 万円**を集めた。

（2020 年）

コロナ禍のため 5 月に緊急オンライン会議を実施し活動を協議した。総会と定期円卓会議（１回）を中止し 2019 年度分助成金 92 万円を次期(2021)に配分することにした。**定期円卓会議は 2 回実施した。12 月「コロナ禍での子ども食堂の再開」**をリアルと ZOOM で実施。**2022 年 3 月**は**「にほんで生きる海外につながる子どもたち」**をテーマに ZOOM で開催した。

また 12 月のサンタ de ランは「ラン」を取りやめ、**サンタ de クリーン大作成＆ｅスポーツ**として、リアルとオンラインの企画とした。今期は例年になく動画での宣伝や、学生・高校生のボランティアによる寄付集めも行われ、**550 万円**を集めて **13 団体に分配**した。個人・企業からの都度寄付などで子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトの**寄付総額は 886 万円**となった。

子ども食堂はコロナ禍での弁当配布になった所が多かった。一方で新たに臨時の食堂を行う所もあり宇都宮市内では２か所増。本会関係では 2021 年２月から市内中心部で**宮っ子元気食堂**が理事２人の尽力により開設した。毎月２回の弁当の提供だが、待っている母子家庭等も多数ある。

無料学習支援の増加はなく、訪問型病児保育はコロナ禍で活動ができず休止状態となった。

また、9 月から市の「親と子の居場所」事業が２か所開設した。今後、中学校区に１か所開設する方向とのことで、この事業の市内への普及とネットワーク化を検討する。フードバンクはコロナ禍であったため、注目度が高まり食品受贈量も拡大し活発に運営している。

（2021 年）

７月にオンライン＋対面での総会を実施した。9 月に子ども SUNSU プロジェクト助成金を公募選考し **7 団体に 110 万円**を配分した。定期円卓会議は 10 月（親と子の居場所事業）と３月（外国ルーツの子どもの貧困調査報告）の２回実施した。サンタ de ランの他には新規の活動は行なわず、今期は「調査を行う時期」として、**外国ルーツの子どもの貧困について「夢 SDGｓ助成」の調査助成**を活用して調査を行い、３月の定期円卓会議で内容を公開した。また、子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトは那須塩原市にも波及し、夢ＳＤＧｓ助成により那須塩原子どもの貧困撃退♡円卓会議が立ち上がり調査を行っている。

・12 月のサンタｄｅクリーン＆ウォークでは高校生・大学生の若者チームが活躍した。寄付は 577 万円となった。また、年度末の２月から「こども食堂はみんなの居場所キャンペーン 2022」の準備をした。(実施は今期 4/10)

（2022 年）

9 月に**総会**を開催した（テーマは外国ルーツこどもの未来）。**3 月**に**「外国ルーツの子どもの貧困調査報告会」**をおこなった。月例会は５回実施した。４/10 の「子供食堂応援イベント」のための打合せ会議があった。このほかに 8 月～12 月にはサンタ de ランの会議が複数回行われ、11 月は助成金審査の打合せの会議があるなどで月例会を開く余裕がなかった。活動は停滞気味である。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（2023 年度）

① 総会、定期円卓会議、月例会

総会・定期円卓会議は行わなかった。月例会は６回実施した。サンサンプロジェクト見直しの時期と判断しプロジェクト全体の意義・評価を行った。結果、ファンドレイジングの意義や、団体が集まり意見交換するネットワークができたことに意義はあった。一方で、市の政策を変えるまでには至らず、政策提言が課題となったと評価した。

② 「サンタｄｅラン＆クリーン」の実施

9 回目のサンタ de ラン＆ウォークは昨年同様「ラン」と「清掃」を合体させた形で開催した。また、**パレードは「世界の子どもたちに平和を」というテーマを設け、一般参加もできる**ようにした。その結果、**過去最大の 450 人の参加**となり、多世代の人が楽しめるイベントとなった。実行委員会は 4 月～1 月の 10 か月間、●回実施した。また、寄付つき商品など新しい参加方法もはじまり活動が活性化した。

		2021		2022		2023	
No	預かり寄付渡先	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
1	**とちぎ V ネット**	1,089,972	1,171,067	1,417,324	1,397,989	810,384	942,392
2	**子どものみらい応援隊**	240,000	257,856	229,807	226,672	262,887	305,710
3	**だいじょうぶ**	674,297	724,465	501,700	494,856	458,000	532,606
4	**とちぎ YMCA**	356,745	383,287	217,987	215,013	367,329	427,165
5	**トチギ環境未来基地**	71,000	76,282	21,000	20,714	46,000	53,493
6	**うりずん**	335,926	360,919	626,505	617,958	394,281	458,508
7	**フードバンクうつのみや**	552,964	594,105	1,227,153	1,210,413	527,170	613,044
8	**青少年の自立を支える会**	20,000	21,488	15,526	15,314	13,120	15,257
9	**きょはら食堂キャラバン**	69,000	74,134	20,000	19,727	10,000	11,629
10	**ちゅんちゅんこども食堂**	220,000	236,368	200,000	197,272	314,000	365,149
11	**宮っこ元気食堂**	192,729	207,068	85,701	84,532	125,408	145,836
12	**たんぽぽの会**	102,220	109,825	110,410	108,904	96,113	111,769
13	**やぎハウス**	77,163	82,904	284,009	280,135	241,000	280,258
14	**そらいろコアラ**	-	-	43,487	42,894	39,658	46,118
15	**蔵の街たんぽぽの会**	-	-	234,228	231,033	97,283	113,130
16	**チャイルドラインとちぎ**	-	-	105,000	103,568	104,000	120,941
17	**宮っこ支援センターSAKURA**	-	-	-	-	164,393	191,172
18	**キーデザイン**	-	-	10,000	9,864	-	-
19	**自主夜間中学宇都宮校**	-	-	9,000	8,877	-	-
	計	4,028,338	4,328,049	5,339,837	5,266,993	4,071,026	4,734,178
	全体に寄付	1,742,394	-	1,688,808	-	2,241,211	-
	とちコミ経費	-	1,442,683	-	1,761,911	-	1,578,059
	合計	5,770,732	5,770,732	7,028,645	7,028,904	6,312,237	6,312,237

①集めた金額⇒団体指定の寄付 ②配分→支払額⇒75％分＋「全体に寄付」を按分した配分
①　と②の総計は、按分の計算後、割り切れない数字があるので、ずれています。

（２）助成（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクト助成金

サンサンプロジェクトの集まったマンスリー寄付金などを原資に 2023 年度から子供食堂などの設立・運営支援のための助成プログラムを実施した。10 月に公募開始、1 月に審査会と配分を行った。2023 年度は 7 **団体に総額 95 万円**を配分した。

	団体名	地区	助成額
1	ちょこっと	佐野	200,000
2	なないろ	宇都宮	100,000
3	フードバンクさの	佐野	100,000
4	おやま子ども食堂笑光	小山	200,000
5	ちもり	佐野	100,000
6	中央こども食堂	宇都宮	50,000
7	ハロハロラボ	真岡	200,000
	合計		**950, 000**

今期後半から運営を NPO 法人かぬま市民活動サポーターズに委託して実施した。

② 「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しＮＰＯへ助成金を贈る17回目の地域助成を行なった。助成金額は20万円１団体、10万円3団体の50万円である。審査は12月13日の第1次審査で4団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により1番票を集めた団体に20万円を助成することとした。応募は16団体だった。3月5日

に贈呈式を実施し、前期（2021年）の助成団体の報告会も合わせて実施した。

今期後半から運営をNPO法人かぬま市民活動サポーターズに委託して実施した。

2023 年度　花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区）
―栃木県内のＮＰＯ・市民活動団体を応援―

花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域の NPO を社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するＮＰＯや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。

1、助成内容

助成内容

・助成総額：５０万円

・助成団体数：４団体

・助成金額　・助成：20 万円＝1 団体、10 万円＝３団体

2、選考までの流れ

◎応募受付開始：10 月 20 日　◎応募用紙提出締切：11 月 20 日必着

◎一次選考：12 月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により 4 団体を選出。

◎二次選考（投票選考）：１月中旬。 花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。

◎贈呈式・レセプション：３月５日。１次審査通過団体においでいただき、贈呈式・レセプションを行います。

◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。

3、応募団体の条件

①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行っている栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない）

②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（１年休み後の応募は可）。

4、応募・問い合わせ先

とちぎコミュニティ基金（認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク内）

栃木県宇都宮市塙田 2-5-1

電話 028-622-0021　FAX028-623-6036　info@tochicomi.org

■選考結果

★20 万円　NPO 法人子育てほっとネット（那須塩原）

★10 万円　・空き家の友（宇都宮）・鹿沼自然エネルギー推進会（鹿沼）・とちぎ多胎ネット（小山）

■年間日程

9 月　助成金の説明会（まちぴあ・ぽぽら主催）

12 月　花王助成審査会

3/30　とちコミのつどい（2022 年度花王助成報告会と、2023 年度助成贈呈式）

③「たかはら子ども未来基金」

2017 年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPO の活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017 年から 2027 年までの 10 年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

学生インターン部門には 16 団体の応募があり 8 団体に助成した。学生は 15 人の申込があり 10 人に助成した。なお、今年は特別助成枠として NPO 法人青少年の自立を支える会と NPO 法人和音にそれぞれ学生２人を受け入れた。

とちぎコミュニティ基金　［たかはら子ども未来基金］・学生インターン助成
（申込締切）団体：2023/5/25、学生：2023/6/15

1、たかはら子ども未来基金とは?

たかはら子ども未来基金とは、子どもや若者の未来を応援する目的で、2017 年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。

現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。 境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設されました。若者の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、 そのような学生を応援する目的で学生 NPO インターン助成が設立されました。特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくことを目指します。

2．　2021 年度の助成事業（学生インターン助成）

学生 NPO インターン助成は、学生が一定期間、NPO や市民活動団体に就労体験すること（＝NPO インターンシップ）を応援します。若者と団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。企業のインターンシップは、業務の見習い的要素が強いですが、NPO インターンは、加えて、職員としてのボランタリーな自発性や創意工夫が求められます。日常業務のサポートだけでなく、インターン生とともに既存の事業の発展や新規の事業の立ち上げを行える団体に助成します。

3．　対象団体

① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体。例）こども食堂の運営支援、新規設立支援。② 子どもの学習を支える活動をする団体。例）無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。③ 子どもの体験を支える活動をする団体。例）自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。④若者の社会参

(2)選考基準

前出の条件を満たす団体の中から、以下の選考基準で選考します。

１．子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体

２．地域で必要とされ一般の人に開かれて、参加できる活動

３．助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体

４．学生のインターンシップを受け入れる体制が整っている団体（学生が相談できる職員がおり、活動の計画、実施、振り返り、改善をともに行えること）

５．学生と一緒に、既存事業の発展や新規事業の立上げを行える団体

4．学生インターンの内容

・学生受入希望の団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチング。

《助成額》８月～２月のうちの 12 日以上のインターンシップ活動に対し、学生 60,000 円、団体 40,000 円を助成します。

・助成総額：900,000 円（最大でインターン生 9 人分と団体 9 団体分）

＊１団体に２人以上の受入れてもらうこともあります。

①第一次審査（団体審査）：選考基準を満たしている団体には、最大 9 団体に、結果通知をお送りします。

②二次審査（学生審査）：選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。

③マッチング手順

Ａ：１人の学生が団体を希望。他に希望する学生がいない場合⇒成立。

Ｂ：１団体に複数の学生が希望している場合⇒団体と協議し決定。

Ｃ：希望の団体なかった場合⇒不成立。

④助成限度の９人のマッチング成立した場合、審査後、最終結果を通知します。

＊特別追加枠について…マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加し

加や就労、生活を支える活動をする団体 ⑤例)若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。⑥その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体。例)環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。 **(1)助成する団体の条件** ■営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行う栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ■県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。■対象市町:矢板、塩谷、高根沢、さくら、大田原、那須塩原、那須、那珂川、那須烏山 、宇都宮、上三川、壬生、日光、鹿沼、芳賀、市貝、益子、茂木、真岡。(事務所があるか、活動している団体)	てもらえる「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。(想定される例) →学生２人が団体 A にインターンを希望し、１人は助成金が通った場合、もう１人は特別追加枠として、参加。 **■選考結果** **・横塚美菜（宇都宮大学）：青少年の自立を支える会（宇都宮）** **・立花ひまる（宇都宮大学）：青少年の自立を支える会（宇都宮）** **・金井美雨（宇都宮大学）：いちかい子育てネット羽ばたき（市貝町）** **・福田晴菜（獨協医科大学）：和音　いのくら児童クラブ（日光）** **・中島真凪（白鷗大学）：和音　いのくら児童クラブ（日光）** **・榎森なつ美（宇都宮大学：サシバの里自然学校（市貝）** **・菊地泉希（宇都宮大学）：フードバンクうつのみや（宇都宮）** **・高橋良輔（日本大学）：ハロハロラボ（真岡）** **・加藤柚穂（宇都宮大学）：そらいろコアラ（真岡）** **・山岸亮太（宇都宮大学）：みんなのカタチ（茂木）**

③ 「とちぎゆめ基金助成」「ゆめＳＤＧｓ助成」

調査助成の応募が１件あり、新規の審査を行なった。この助成の特徴は①地域の課題解決のために複数の団体で応募する、②３年間の助成で１年目は調査をするという珍しい助成金である。今期からは継続助成がなくなり、新規の応募が待たれているところであった。

審査の結果、**栃木おやこ劇場（他、ねずみもちパーク、栃木登校拒否を考える会、フリースクールあっと）が１年目の調査助成の対**象となった。

2023とちぎゆめ基金　「持続可能な地域づくり・ＳＤＧｓ助成」締切	
１、主旨 この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。(1年目は調査助成のみ) 国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール（ＳＤＧｓ)」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計(調査)と実施(継続するための仕掛けづくり)のスタートを支援します。みんなで10年取り組めば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。	
２、対象となる事業・条件 ・３～５団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取組む内容であること。 **３、伴走支援：**必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。 **４、助成期間：2024年4月1日～2025年3月31日** **５、助成金額・件数：**総額50万円 (1)調査助成：１事業10～15万円×３団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成(２年目以降):10～20万円×２団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集 **６、報告書・成果物** 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。	**７、応募について** (1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（※営利/非営利、法人格不問) (2)応募方法:①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメーで。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)締切：2019年12月25日（水) (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性（SDGｓ）への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ③　波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。 ④　選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。

④ガザ・パレスチナ緊急救援募金

10/6に発生したパレスチナのガザ地区の紛争について、**即時停戦をもとめる街頭アピールとＮＧＯ支援募金**を開始した。一時戦闘休止はしたものの半年以上の一方的な攻撃により、直截死だけでも3万5000人に達し、深刻な飢餓状態の人も数十万人いるといわれている。

寄付は**981,089円となり、日本国際ボランティアセンター（ＪＶＣ）**に寄贈した。

⑤ 能登半島地震のボランティア活動支援金

1/1に発生した能登半島地震の救援活動のために募金活動を行った。**寄付額は1,998,259円**（3/30）となり、本会の活動資金となるとともに、栃木県内からの救援活動に助成する。

（３）合同ファンドレイジング（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①サンタdeラン＆クリーン

子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトの一貫として合同ファンドレイジングを実施した。(P18)

②チャリティウォーク・合計60

県内のＦＢ団体の合同ファンドレイジングとしてとちコミ主宰で実施した。１日イベントを県北（9/30那須塩原）、日光（10/1）、県央（10/7宇都宮）の３か所で行った。**寄付総額2,955,5012円、寄付者383人**で、**参加者は145人、ボランティア90人となった。**

運営のために6月から実行委員会を組織し**実行委員会･ボランティア説明会を6回**実施した。

	2023	
団体名	集めた金額	配分→支払額
FB 県北	1,071,107	1,176,859
FB 日光	161,529	177,477
FB もおか	123,000	135,144
FB 希望のタネ	59,000	64,825
FB うつのみや	543,853	597,548
FB さくら	59,000	64,825
	2,017,489	2,216,678
全体に寄付	938,082	―
事務局経費	―	738,893
計	2,955,571	2,955,571

第 11 回「チャリティウォーク 60（黒磯・日光・宇都宮）」～フードバンクの助け合いが、希望のタネになる～

１、目的・趣旨

県内で活動するフードバンクへの資金造成（寄付）とフードバンク活動の理解促進のためのチャリティイベントをとちぎコミュニティ基金の主催で実施する。

食品ロスの軽減だけでなく、以下のような困窮した状況にある人たちの現状や制度の限界を伝えることでフードバンク活動の意義や効果をより広く世間に広報する。そして、それらを支えるのは地域住民、企業の意識であり、寄付であることを訴え、「私たち自身がセーフティーネットを作っていく」必要性と、こうした仕組みの存在があることで「やりなおしがきく社会」をつくる希望となることを強く発信する。

≪困窮者の状況≫

・パートをかけもちしながら働く貧困線以下の母子家庭の窮状（ひとり親家庭の相対的貧困率は 50.8%）

・不安定な就労をし、雇い止めと同時に職と住居を失うワーキング・プアの存在

・病気、精神疾患になり年金も少なく、「人の縁」に恵まれないなど、経済的にも精神的にも困窮、孤立している高齢者の窮状

・生活保護では困窮者の全部は救えておらず、事実上生活保護以下の収入で暮らしをしている人が数倍いること（生活保護の捕捉率は約 2 割）

・外国ルーツの子どもと家族が、様々な制度から外れていて、今日生きることも厳しい状況もある。（仮放免の外国人は医療や就労、移動に制限がある）

〇県北と日光、宇都宮の 3 会場とし、日付をずらして実施する。

２、日時・場所

①黒磯）2023 年 9 月 30 日（土）・9 時～16 時頃（雨天実施）

・＜周回コース：黒磯公園、黒磯駅などを経由予定＞

②日光）10 月 1 日（日）　・9 時～16 時頃（雨天実施）

・＜JR 日光駅～第 2 いろは坂～中禅寺湖＞

③宇都宮）10 月 7 日（土）　・9 時～16 時頃（雨天実施）

・＜宇都宮まちかど広場～JR 宇都宮駅～石井街道～飛山城址公園～かしの森公園＞

※帰りは LRT に乗車して帰ることもできる

３、参加資格等

●チャリティウォーク 60（黒磯・日光・宇都宮）

・参加できる人（個人）：食品 1 kg以上の寄贈、と寄付 3,000 円か 5,000 円か 1 万円以上を寄付した人（団体）：1 チーム 3～5 人。食品 5 kg以上を寄贈し、1 万円か 3 万円か 5 万円以上を寄付したグループ

（学生応援）：ガンジー・テレサ基金、学生チャレンジャーを応援する寄付。1 口 5000 円。　☆応援されたい学生さんは、参加寄付が最大半額になります。申し出てください。

※１　食品はできれば多くの人から集める。（缶詰、レトルト、麺類）

※２　寄付は、自分で寄付するだけでなく身近な人からも集める。

※３　小学生以下は引率者同伴での参加に限る

※４　ガンジー・テレサ基金を使いたい学生（大学生以下の若者）は申込時に確認する。最大半額の応援が得られる。

※５　複数回参加する人はその都度寄付を支払う。複数回参加した人には達成感のあるものを贈呈する。

･寄付先の指定：今回参加している県内の FB のどこにでも寄付できます。□に✓してください。

寄付先団体　①フードバンク県北　②フードバンクうつのみや　③フードバンク日光　④フードバンクもおか　⑤フードバンクさくら　⑥フードバンクさくらんぼ（NPO 法人希望のタネ）

４、広報

WEB サイトによる広報。①　フードバンクの周辺にいる困窮者の実情を記事で紹介する（毎週 1~2 回更新）

チラシの配布による営業活動　①各市町　②企業　③学校

５、募集

①県北　・参加者：　150 人（団体：10 チーム、個人：100 人）

・ボランティア：50 人

・協賛企業（施設）…10 社：寄付および参加者への支援飲料、食品など

③　日光　・参加者：　100 人（団体：10 チーム、個人：50 人）

・ボランティア：60 人

・協賛企業（施設）…15 社：寄付および参加者への支援飲料、食品など

④　宇都宮　・参加者：　100 人（団体：10 チーム、個人：50 人）

・ボランティア：60 人

・協賛企業（施設）…15 社：寄付および参加者への支援飲料、食品など

・企業にボランティアを募る。休憩所の運営など。

６、目標金額：370 万円

・県北コース：148 万円、（団体 30 万円、個人 50 万円、協賛 40 万円、寄付のみ 28 万円）

・宇都宮コース：222 万円（団体 45 万円、個人 60 万円、協賛 27 万円、寄付のみ 90 万円）

【各団体の目標寄付金額】

FB 県北　120 万円　　FB うつのみや　100 万円

FB 日光　18 万円　　FB もおか　15 万

FB さくら　10 万円　　FB さくらんぼ　20 万円

全団体への寄付　57 万円

７、開催までの日程（予定）

※実行委員会（●県北 CW 会議・第 1 土曜 15 時～/●県央 CW 会議・第 1・３金曜 18 時～）

①　6/25（15:00～）募集要項決定、協力者の募集（個人・企業・団体等）、参加者募集。

②　7/2：コース決め、集合場所等予約　チラシ・ラフ

③　7/17：コース下見（コース確認、休憩ポイント確認等）

④　7/24：パンフレット完成。協賛企業募集開始

⑤　8/1:参加チーム等によるファンドレイジング開始　中旬までにボラ数、ふるまい、備品確認

⑥　8/31：第 1 次締切

⑦　9/24：ボランティア説明会

⑧　9/18：県北・日光コース締切　10/1：宇都宮コース締切

・9/30：県北コース　実施　　・10/1：日光コース　・10/7：宇都宮コース　実施

Ｆ．【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

（概況）2023 年度は日本財団「子ども第三の居場所運営事業」の助成金により、フードバンク活動と共に、週 3 日（火水金）の子ども食堂と、毎月 2 回の子ども体験活動を実施した。

職員 1 人、非常勤職員 2 人とボランティア 50 人とともに事業を実施した。現在は 3 年後の助成終了後に、会費寄付などの自己財源で運営ができるように組織体制の強化をしている。

前年度のボランティア中心の運営から、職員とボランティアの協働による運営に切り替わったことで、意思疎通が上手くいった。一方で**フードバンク県北**は利用が 1.2 倍に増加したが、受贈食品が減少し、食品不足の傾向がある。また、毎月、**食品定期配布会**を行った。来所の困窮者にアセスメントをおこなった。

寄付イベントとして**チャリティウォーク県北**や、サンタ de ランの事後イベントとして**第 3 回「クリスマスウォーク」**を開催した。初めて夜間の開催となったが、参加者にとても好評であった。

（1）生活困窮者支援（生活困窮者の支援）

①フードバンク県北

フードバンク県北では、2023 年度は **14 トンを受贈**、うち **9.4 トン（759 件）を生活困窮者に寄贈**した。昨年よりも件数が増加した。フードバンクを利用する多くの人が長期の困窮状態になっている。

食品配布会は毎月第 2 土曜日に実施し、徐々に困窮世帯との関係性ができ、支援のきっかけを探れるようになった。また 3 月には栃木県の補助金を受託し、食品配布会を実施した。延べ 360 世帯に食品を配布した。

黒羽にある食品倉庫が遠い場所にあり不便であったが、大田原市の協力により利便性の高い中田原に食品倉庫を確保することができた。

9 月には**「チャリティウォーク県北 21」**を主宰し、参加 66 人寄付 107 万円を集めた。

（2）子ども第三の居場所 子どもの居場所スマイルハウス （生活困窮者の支援）

①「子ども食堂」の運営…「子どもの居場所」、「学習支援」、「食事支援」

子ども食堂は毎週 3 日（火・水・金）に実施した。水曜日は（7 月～）スタートする。子どもたちの生き抜く力を育むことを中心に、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所として、また食事は栄養バランスを考慮した食事を無料で提供して食の大切さ、みんなで食事をする楽しさを伝えていきました。また学習習慣が定着するようにスタッフによる宿題支援を行った。

⑤「子ども体験活動」の実施

毎月 2 回 第 1、3 土曜日に体験活動を実施した。子どもたちには野外活動、農業体験、料理、自然とふれあうことなどの経験を積ませ、チャレンジ精神、自己肯定感、主体性、対人コミュニケーションなどの「非認知能力」を育ませた。スマイルハウスの子どもだけではなく、他の子どもや大人と関わりを学びながら社会性も身につけている。

③ヤスイの食卓（若者支援）、子どもも大人も誰でも来れる食堂

毎月 2 回 第 1、3 土曜日に実施した。参加費 200 円の中で食材を購入し工夫しながら料理を作り、生活習慣の向上をはかった。12 月から毎月第 3 土曜日は、親の子育て負担の軽減支援と若者の自活能力の向上を掲げて、**子どもも大人も誰でも来れる食堂**をオープンした。おとな 500 円、子ども 300 円と低料金でまかなう。

３．財政・組織運営

（１）会員

会員数は**599人（団体24、支持178、賛助397）**、会費は**216万円**になった。会員数は能登半島地震により賛助会員が90人増加した。会費収入は昨年より37万円増加した。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の２つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、**「ついつい未納」**になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き）、会員総会、Ｖネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。更に会員更新のお知らせやお礼状を郵送で送ったことも未納者や退会者を最小限に抑えている。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く、声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない。今期は、能登地震災害救援ボランティアに参加する人の条件に賛助会員になることにして会員を増加することができた。

（２）寄付

年間寄付額は 2,409 万円になった（前期 2,729 万円）。また、ＮＰＯ法人会計基準によるボランティアの活動時間を「ボランティアによる役務の提供の評価額」とし、最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は 346 万円**となり前期より 46 万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

一般会計		寄付の方法
①　一般寄付	通常の寄付	**・現金** **・郵便振替** **・銀行引落し** 都度寄付とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。 **・オンライン寄付** ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる
②　災害寄付	災害救援目的の寄付	
③　フードバンク寄付	フードバンク事業に対する寄付	
④　年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12 月１日～1 月末まで	
⑤　サンクスＶクラブ	Ｖネット“後援会”寄付金(後述)	
⑥　プレミアム寄付コース	Ａ：SOS を出している人の人生寄り添いコース：50,000 円 Ｂ：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000 円	
とちぎコミュニティ基金会計		
⑦　とちコミ寄付	「とちコミ」への単発寄付	
⑧　子ども SUNSUN 寄付	A:子ども SUNSUN 都度寄付　B：子ども食堂応援団　C：子ども SUNSUN メイト　D：プロジェクト発起人寄付	
⑨　サンタ de ラン寄付	県内の子ども支援団体への寄付。通年募集、12 月末締切。	
⑩　災害等の緊急支援募金	地震や災害などへのボランティア活動寄付（随時）	
⑪　たかはら子ども未来基金寄付	こども・若者の未来を応援するための寄付	
⑫　とちコミサポーター	継続的にとちコミの活動を支える寄付 A:とちコミマンスリーサポーター　B:とちコミサポーター　C:とちコミ団体サポーター	
⑬　じぶん基金	寄付者のお名前や助成目的を冠した特別枠のファンド	
⑭　遺贈・生前贈与	栃木の未来に思いを託す寄付	

（３）事業収入

受託事業収入は488万円と昨年より10万円減少した。また**助成金は1,023万円**で、前期より**3,954万円の減少**したが、これは休眠預金助成事業が受託できなかったためである。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。本会の存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなどの努力が必要である。

（４）組織

①会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は5月20日に実施した。

定期会員総会は124人出席（うち委任状118人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5月19日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

⑥ 来年どうするか会議（創出会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考える来年どうするか会議をグループワークで開催した。今期はVネットを理解するために、行ってきた事業の歴史を振り返る必要があるとのことから、当時の中心人物約10人の語りの後、次年度のアイデア出しを行った。

月日	会議名/出席人数
2/3	来年なにするか会議　/　18人　（進行：松葉）

③理事会

理事会を4回開催した。

月日	議題/出席者
5/23　監査	君嶋、菊池
5/24　第１回理事会	2022年度事業報告・決算について　矢野、柴田、荻津、山本、大金、飯島、高久、荻津、塚本
11/14　第２回理事会	①　上半期の事業報告について　/矢野、荻津、大金、柴田、山本、飯島、荻津、鈴木、佐藤
3/27　第４回理事会	①　2024事業計画・予算について　/矢野、廣瀬、中野、柴田、塚本、藤田、高久、飯島、鈴木

⑦ 職員会議・ケース検討会

第２・４水曜10時から、**職員会議**を毎月２回開催した。うち１回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。**ケース検討会**は第１・第３水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面とオンライン(zoom)でも参加できるようにしている。

●運営委員会・職員会議　4/5、4/26、5/10、5/24、6/7、6/21、7/12、7/26、8/9、8/23、9/13、9/27、10/11、10/26、11/8、11/30、12/13、12/27、1/10、1/24、2/14、2/28、3/13
●ケース検討会：4/5、4/19、5/17、6/7、6/21、 7/5、7/19、8/2、8/16、9/6、9/20,10/4、10/18、11/1、11/15、12/6、12/20、1/17、2/7、2/21、3/6

(5)チームの会議・活動日

①新聞切り抜き隊＋しみん情報玉手箱

毎週水曜日１３時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在3～4人。

② フードバンク会議

毎週木曜15:00から会議を行った。

③ サンクスＶクラブ(後援会)

今期は実施しなかった。

サンクスＶクラブは**年間２万円以上の寄付**をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが高齢化のため参加が少ない。年２回の定例会(親睦会)を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。

サンクス"V"クラブ　会則　2005年７月30日 （第１条）本会はサンクス"V"クラブと称する。 （第２条）本会の事務局を宇都宮市塙田２丁目５番１号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 （第３条）本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 （第４条）本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 （第５条）本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 （第６条）本会に次の役員を置く。 〔1〕代表　1名 〔2〕副代表1名以上	〔3〕会計　１名 （第７条）本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 （第８条）本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 **役員名簿** 代表:高橋昭彦さん　副代表:高木敏江さん　会計＆事務局：菊池順子

監査報告

2023年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2024年　　月　　日　　監事＿＿＿＿＿＿＿＿

監事＿＿＿＿＿＿＿＿